第 2015-33 号

恵みと真理のニュース

2015 年 8 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

御言葉と聖霊充満な恵みと真理教会で説教を聴き 熱心に主を支える恵みを下さる神様を感謝します

私は子供の頃から母をついて恵みと真理教会で多くの時間を過ごし神様に対する信仰を育ちました。中高生の時でも当会長牧師の説教を聞き恵まれ大人の礼拝も参席して牧師の説教を聴いてノートに書くのが楽しかったです。教会学校では学生会の委員を任せられ高等学校でも宗教部の役割を任せられて奉仕しました。そうするうちに主が希望を下さってソウルにある神学大学に入りました。しかし、神学校生活は考えた事と違いました。大学キャンパスは自由主義の神学と宗教多元主義の場で恵みあふれる礼拝の姿はありませんでした。しかし間違った自由主義神学を確実に知てその問題を把握できると思って頑張って勉強しました。主日は教会で当会長の牧師の説教を通して恵まれ、平日は学校で討論従業などの時間で福音主義的な観点に立脚して救いの真理から離れた西欧神学の問題点を指摘しながら揺れない聖書的な信仰を確立することに力を尽くしました。

ある日、wccブサン総会を控えて、私が通う神学校でwccの韓国地部に属している教団の新学校でwcc総会に参席する学生達だけに何科目で2学期点数を上げると発表しました。参加費も学生達には高かったです。私の神学の良心では宗教多元主義と混合主義の団体行事に参席出来ませんでした。

ちょうど当会長牧師がwccの問題点と弊害についてよく話してくださったので私の心はもっと確たる態度をしました。それでもう2学期が始まる前に軍隊に行こうと思って入隊志願しました。しかし、軍隊入隊が大学入試よりもっと難しいと噂がありました。願う時期に入ることは難しくて、今軍隊に行かないとwcc大会に不参加して点数をもらえない状況なので祈りながら様々なところに志願しました。 一般兵、共に入隊、乗馬兵、 有害発掘兵、海兵隊、空軍、宗教病、コンピューター行政兵士、地雷除去、射撃指揮病、運転兵の11回の志願の末にやっと運転兵で時期に合わせて入隊することが出来ました。そんな問題は運転兵には合格しましたが一度も運転をしたことがなかったです。新兵教育で基礎軍人教育が終わって運転兵で運転教育を受けるため運転教育部隊で転入しました。

助教達が恐く運転教育をさせて、運転免許はあっても実際に運転経験もない私が運転教育をついていくのが難しいでした。特技がある兵士が教育をついていけない場合いろんな処罰があります。　毎日ように運転が出来ないとストレスを受けて熱が40度まで上がって入院しました。

何日後、熱が下がって退院してこれから熱心に運転教育を受けて足りない教育の日を埋めながら軍隊免許を取得してから自体配置だけ残った状況でした。しかし、祖父が亡くなって休暇を得て葬式を参席してから軍隊に入ると教育日数が足りないから退効装置が決定されたと聞かれました。私は切ない心でもう一度機会を与えてくださいと願いました。退効措置か当たり前だが試験に受かれば運転兵として配置させると言われました。事実は私に機会を与えるのではなく私の運転実力がないことを知っているので当然試験に落ちると思って退効処分するため言ったのです。

軍隊車は一般の車と違って大きいから軍運転免許の試験を練習と教育を受けなかった初歩運転だったら一回で通過するのは不可能な事でした。私は今まで運転があまりにも出来なくて処罰だけ受けて運転したのは2時間もしてなかったです。入院してから祖父の葬式まで行って帰ったから習って練習する機会が全くなかったです。それにも関わらず選択肢もなかった私は神様の愛を委ねて全能なる神様を仰ぎました。

神様の奇跡を望んで試験を受けました。すると驚くな事が起きました。ハンドルを取った手と足は意志と関係なく動き始め一度に合格しました。社会で運転した兵士達も落ちるのに一度に合格したのは神様の奇跡でした。むしろ、私を退効しようとしたと幹部達に〝教育が足りない教育生を試験に合格させるほど大きい愛情を持って教育させたと功労で上部から褒賞を与えました。しかし、試験に合格したのは慈しみ深い神様のおかげです。軍隊配置されカンウォンドテツウォンで働きました。

主日に休まずに教会に行って礼拝する事が難しかったです。私がどうしても教会に行こうとしたら先輩達から迫害を受けました。それにも、時間がある時に聖書を読んで主日に頑張って教会に行き主に委ねるようになりました。ある日、一号車を運転する機会が与えられました。後で聞いた話ですが、任務を与える輸送官が考える時に私は神学生で誠実でを敬う目上の人を敬う事が慣れているだろうと思ったそうです。軍運転試験もすぐ合格したから 一号車の運転兵として適切だと判断したのです。

しかし、運転実力はすぐばれてしまい事務室で配置され庶務をする仕事に変り変りましたが落胆しなくて熱心に働いたら軍隊の礼拝を導く牧師が私を軍宗兵として呼んでくださいました。礼拝ことに恵みを求め御言葉を聴く私を注意してみたそうです。その時から主日に教会に行く問題がなくなり迫害する先輩達もいなくなり、教会と牧師と聖徒を支え自由に信仰生活をする事ができました。慈しみ深い神様の摂理とその愛に限りなく感謝しました。

ある日は主日に普通のように教会を支え軍牧師の説教を聴いたらwccが明確に背ける行為だと強調しました。その説教を聴き〝神様はwccのような背教の席から離れ学点も守るように導いてくださり、助けてくださった神様の摂理があったことに感激するようになりました。その姿を見た牧師が私を呼んで様々なことを聴かれました。今までの状況と恵みと真理教会の礼拝と使役について詳しく話しました。話を聞いた牧師は感動を受けたか、私にクリスマスの礼拝に説教を任せました。驚くな事で恵みなのか苦難週間に入隊してクリスマスの日が除隊する日でした。クリスマスに説教することが軍隊の中で最後の栄光である任務になったのです。

まだ、神学生で軍人なのに説教するようになったのが神様の前で弱くて足りないものがしても良いのかと思って恐くて緊張しました。ふっと当会長の牧師が高校の時初めて説教した話した思いだしました。私は緊張している心を主に委ねて神様が下さる大胆さで従順して説教を準備しました。そしてクリスマスになり聖霊の導きを信じ委ね御言葉を伝えました。

軍牧師は私と最後だと思ったのか涙を流し励ましたくださいました。その日初めて教会に来た幹部達もイエス様を受け入れ洗礼を受け信者になりました。

私は初めから最後まで神様の恵みと愛を受け軍隊を無事に恵み溢れる中で終わりました。そして弱くて足りないものを通して主は救いを導く事に感激しました。若い時から教会で熱心に聖書を習い説教を聴いた通り恵みと真理の福音聖を伝え、聖書の通り救いの真理を信じ今まで私の人生は奇跡で全てのことが御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働いてくださいました。

除隊して教会で教師として奉仕しています。何日前の中高等部の夏修練会で当会長牧師が教師と学生達に恵みある特講をしてくださり、学生達の多くの質問の答えて疑問を明快に解いてくれました。真の恵みと感動でした。神様の恵みと牧師の愛に感激して喜びの涙が出ました。御言葉と聖霊に満たされている恵みと真理教会が他の教会より愛されているのです。神様に全ての栄光を捧げます。

“ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。”（使徒言行録4：12）　“恵みと真理はイエス.キリストを通して現れたからである。”ハレルヤ！

[信仰コラム]

恐れてはならない

″恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。…．″（イザヤ書，41:10）

恐れは私たちに有益な情緒であることもできてとても有害な情緒であるかも知れないです。 恐れがあるから事毎に気を付けて行って危険を予防しながら備えたら有益な場合だとします。 しかし恐ろしさが持続するとか極甚であるならば人の肉体と精神と生活に大きい打撃と損傷を被らせるようになります。 本文お言葉は恐れを治めて平安を享受する最高の秘訣を啓示しています。

第一に、 恐ろしくないで ’私はあなたの神様になるのだと’言いました。

’私は’とおっしゃった神様はどんな方ですか? 出エジプト記，3章 14節に見ると神様が啓示なさるのを ″「わたしは、有って有る者」″ としました。 被造された存在とは違い能動的に永遠に自らいらっしゃる方を強調した表現です。 絶対完全で、独立的で、宇宙中のすべての原因と結果の法則を超越した方としてすべての存在の根拠と基盤になる創造主の神様の本質と属性をそのまま現わす言葉です。 引き続き 15 節には ″アブラハムの神様、イサクの神様、ヤゴブの神様エホバ″ と言いました。 ’エホバ’という名前は神様の自尊性と永遠不変性を強調した名前であり、彼の選んだ民といっしょに口約束を結んでその口約束を必ず成す神様という意味を持っています。 特に人間を救われるあがないの主としてあがないの口約束を信実するように成す神様であるのを意味しています。 創造主であがない主である神様、唯一な神様、永遠にいらっしゃりながら不変な神様が私たちのイエスキリストを信じるすべての人に ″私はあなたの神様である″とおっしゃいます。

二番目で、恐ろしくないで ’私があなたと一緒にいると’言いました。

恐れを持つようになれば当面した問題を誤れに対応することになります。 また神様が一緒になさるという事実を忘却して行えば無気力になって許諾された幸せも享受することができなくなります。 神様が一緒になさるという意味は本文に三種類に啓示されています。 第一、屈強にさせるという意味を持っています。 神様が屈強にさせてくだされば私たちがどんな脅威と困難に直面しても大胆に対処して行くことができます。 神様がダニエルを屈強にさせました。 ダニエルは王外にどの神にも人に何を求めれば獅子の穴に投げこむという禁令を立ててその調書に御印があったことが分かったが少しも恐ろしがらないで以前にしたとおり一日に三度ずつ神様に礼拝させていただきました。 神様が天使を送って獅子の口を封じたので獅子が彼を傷害しなかったし、代わりにダニエルを讒訴した人々とその家族たちが 獅子の穴に投げられました。

第二、手伝ってくれるという意味を持っています。 神様が手伝ってくれればすべてのものが合力して善を成すようになります。 ヨセフは神様の助けを着て災い転じて幸せになるのを体験した証人です。 彼は兄の憎しみを受けてエジプトに売られたしエジプトでも謀陥を受けて深い監獄に入りました。 患難と苦痛が近付いたが彼は悲しむとか恐ろしがらなかったです。 神様が彼と一緒になさるという事実を少しも疑わなかったからです。 時になって神様が彼をエジプトの国務総理に高めてくださって飢饉の時にあたって国と彼の親と兄弟を食べさせる役目をさせました。

第三、つかんでくださるという意味を持っています。 神様をつかんだ私たちの手が弱くても私たちをつかんだ神様の手は強くてどんな場合にも離せません。 主がペテロをつかんでくださいました。 イエスキリストがつかまれった日の夜彼はイエス様が分からないと三度も否認しました。 彼がつかんでいる手の力が弱くて手を逃す所であったが神様がつかんでいらっしゃるのでまた回復するようになって使徒の中に使徒になって大きい役目をするようになりました。

聖徒の皆さんはイエスキリストにあって選ばれたのは神様の民で彼の子です。 だから恐ろしがらなくて大胆でこのお言葉の真実を証拠する証人の中の一人になるように願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

ほったらかしておいた人々

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

投げ捨てて振り返らない対象になることはさんたんな事です。 戦争の中にこんな状況に処するようになる人々がたくさんできます。 特に避難の道に親が死のうが親を失くした子供達がそうです。 個人や少数の無理だけではなく民族全体がこんな悲劇に処する場合があります。ユダヤ人の歴史がこれをよく言ってくれます。昔のエジプトで、バビロンで、20 世紀にはナチスドイツのヒトラー治下で民族滅絶の危機に処した時どこにも訴える所がないさんたんな事を経験しました。 これよりもっとさんたんなことは神様から投げ捨てることにあう場合です。ローマ人への手紙 1 章には神様がほったらかしておいた三つの部類の人々に関して記録しておきました。

第一、 一生の間偶像崇拝する人は神様がほったらかしておいた人です。

天地万物を造った神様を信じなければ偶像崇拝するようになります。 創造主がいらっしゃったことが知るのは複雑で難しいのではないです。 宇宙万物が創造主がいらっしゃるのを現わして分からせるからです。 神様の存在を認識することができなくて神様を仕えなかったという言い訳は通じないです。 その理由が本文の 19 節と 20 節にこんなに記録されています。“なぜなら、神について知りうる事がらは、彼らには明らかであり、神がそれを彼らに明らかにされたのである。神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。” 神様が人に理性をくださいました。 理性は事物の理を論理的に思って判断する心の作用です。 事物を観察して実験して理が分かって存在理由を考えさせます。こんな理性を通じて事物を注意深くよく見れば神様の存在を否認することができないです。神様は人に理性だけではなく良心をくださいました。 人間が適切に行いを行わなければつらさを感じることは良心があるからです。 批判哲人で知られたカントは言うのを “神様の存在を否認することができない証拠は頭の上の星と心の中の道徳律である。”としました。

有限な人間は無限な創造主の神様を知覚するとか認識することができないという言い訳は理性と良心を持った人としては言うことがならないです。 良心と理性を持った人間なら創造主神様の存在を否定することができないです。それなのに人間は神様に光栄を帰しながら感謝いたす事はしないでむしろ人と禽獣とはく物の形状を作って神格化してこれを仕える行為をしています。 偶像崇拝はいつわりでむなしい考え、愚鈍な心、愚かになった知恵から出たのです。

創造主の神様がいらっしゃったことを分かる理性と良心を持った人が被造物を神格化して仕えることは最悪の悲劇です。 偶像崇拝をたとえ宗教という名前で美化させると言っても偶像崇拝から脱することができるのではないです。

第二、神様が男と女に与えられた本性に配置される行動をする人は神様がほったらかしておいた人です。

神様が男と女を造りました。 そして男女が相手を成して子供を生んで養育しながら生きて行く本性をくださいました。 本文の 26 節と 27 節に記録されるのを “それゆえ、神は彼らを恥ずべき情欲に任せられた。すなわち、彼らの中の女は、その自然の関係を不自然なものに代え、男もまた同じように女との自然の関係を捨てて、互にその情欲の炎を燃やし、男は男に対して恥ずべきことをなし、そしてその乱行の当然の報いを、身に受けたのである。”と言いました。同性愛という性倒錯行為は神様が決めた順理を逆う行為です。 こんな恥かしい事をすればそこに相応する報応を受けるようになります。 正常な社会生活ができなくなって精神的な荒廃と肉体的な疾病などの報応を受けるようになります。 20 世紀末から同性愛者数が早い速度で増えています。 今は同性愛者の権益を保護して合法化しなさいという音がますます大きくなっています。 アンケート調査でこれを支持する数字が急激に増えています。こんな面では我が国がアメリカのようにならないように祈って力をつくさなければなりません。私たちは同性愛者をあわれんで思わなければなりません。 彼らが定常状態に帰って来るように祈って助けなければなりません。 ずっとそのまま行えば神様から遺棄された人々になるからです。

第三、神様を心に受け入れのを結局に拒否する人は神様がほったらかしておいた人です。

神様を心に受け入れることを拒否すれば神様から投げ捨てることになります。 本文の 28 節から 31 節 までには神様のほったらかしておいた人生が行う罪悪の具体的な様相が列挙されました。 そして、彼らは神を認めることを正しいとしなかったので、神は彼らを正しからぬ思いにわたし、なすべからざる事をなすに任せられた。すなわち、 第一は、不意です 神様を敬い畏れないことが不意ですあらゆる不義と二番目は、醜悪です 自分が悪しいだけなく他人まで悪しくする悪事です 三番目は、貪欲です。 四番目は悪意です 人を害しようとする意図です 五番目はねたみです
六番目は、殺人です 七番目は、紛争です 八番目は、詐欺です 九番目は悪念とに満ち、また、十目は ざん言する者、 秘密に他人を扱き下ろします 十一目は そしる者、 誹謗する者です。 罪のない人を公開的に悪口を言って扱き下ろします 十二目は神を憎む者、神様の旨を不服して無視します 十三目は 不遜な者、陵辱する者です人をいじめます 十四目 高慢な者、 十五目 誇る者です大言壮語する者、十六目は悪事をたくらむ者、他人を破滅させるために手段方法を選り分けないではかります十七目は、親を逆う者です 十八目は無知、愚昧な者です。

教訓をきいてからも悟ることができないです。十九目は不誠実、約束することを相手を欺くための手段にします。 二十番目は、情無い者です、 二十一番目は、無慈悲な者です。 本文の 32 節には “彼らは、こうした事を行う者どもが死に価するという神の定めをよく知りながら、自らそれを行うばかりではなく、それを行う者どもを是認さえしている。” 言いました。

神様がほったらかしておいたというお言葉には二つの意味があります。 第一の意味は、面倒を見ないという意志の表明です。 面倒を見ることもできなくて、面倒の価値もない対象になってしまったという 意志の表示です。 死ぬその日までイエスキリストを迎接しないで死を迎える人は神様がほったらかしておいた人です。神様がほったらかしておいたという二番目の意味は、神様の恵みと愛を完全に悟って徹底的に悔い改めるようになさろうとする意志の表明です。

イエスキリストがおっしゃった父と二人の息子の比喩に登場する二番目の息子はある日父に自分に帰する財産をくれと要求しました。 その息子は父から受けた財産を持って遠い国に行きました。 その所で彼は自由を満喫して虚浪放蕩した生活をしました。 久しくなくて持ったお金がなくなりました。そのうえこの地域に飢饉が発生しました。 糊口之策でやっと得た働きが野で豚を飼う事でした。 それも千万多幸で思ったがいつもお腹がすいていました。豚が食べる実でも食べようと思ったが主人が禁止させました。 初めて彼は父に帰って赦しを求めることに決心して家に向かって行きました。帰って来る息子を見た父は駆けて来て抱きしめて口をせっぷん合わせました。 父は帰って来た息子に良い服を着せて息子のために盛大な宴を施しました。 父は息子が自分の分け前の財産をくれと要求したら与えてからは立ち去る息子をつかまないでほったらかしておきました。息子がどこでどのようにしているのか訪ねるとかしもべを送って調べないでほったらかしておきました。 もし蕩子が帰って来ないで飢えて死んでもほったらかしておいたはずです。ところで驚くべきな話はこれです。 遺棄された息子が父の位に帰って来たのです。 また父は息子が帰って来る場合にどのように当たってくれるはずなのかに対して十分な用意ができていたというのです。

長年の歳月の間に偶像崇拝をした人でも、神様が男と女の本性に配置される行動をした人でも、神様を心の中に面倒を見たがらなくてわがまま行った人でも悔い改めれば神様が受け入れて許します。 悔い改める罪人を嬉しく迎接してくださって赦してすべての良いことを惜しまないで施します。 これがイエスキリストによる福音です。 まして信仰生活を疎かにして虚しい仕事に歳月と持ったものを浪費したことを悔い改める聖徒に神様が愛の手助けを突き出してつかんでくださるということは疑うことがないです。 神様がほったらかしておいた人々の中で神様の位に帰って来た皆さんは幸せな人です。 皆さんは神様のほったらかしておく対象にならないように いつも神様のお言葉に耳を傾けて聖霊様の引導を察しながら生きて行ってください。